

# 慈恩寺 Times

第35号

【発行】  
寒河江市慈恩寺振興課

【発行日】  
令和2年4月20日(月)

【問合せ・ご意見等】  
寒河江市慈恩寺振興課  
TEL:0237-85-1487

E-mail:jionjishinko@city.sagae.yamagata.jp

## 来訪者に優しい史跡へ



写真① 山門前石段脇の手摺と史跡標識

さて昨年度末の史跡整備事業として、来訪者が安全に山門前石段を通行できるようにするため、石段脇に手摺を設置しました(写真①)。これまででは足腰の悪い方にとっては登るのが困難な石段でしたが、手摺設置によって登り易くなりました。

また来訪者に「国が指定した史跡であること」を知らせるための史跡標識2基、円滑に誘導するための案内板1基、史跡を構成する主要建造物等の情報を提供するための説明板5基、の設置を行いました。史跡標識は山門前石段脇(写真①)と八面大荒神社前に1基ずつ、案内板は慈恩寺第1駐車場(写真②)に、説明板は三重塔(写真③)、宝蔵院、華蔵院、最上院、下馬橋にそれぞれ設置しました。外国人来訪者向けに案内板には英語、中国語、韓国語の訳文を、説明板には英語訳を併記しています。今回設置した看板類が、史跡の理解促進の一助になることを期待しています。

草木萌えいつる季節になり、「さて行動開始だー!」と思ったら、コロナ禍で大きく行動を制限される春となりました。麗らかに咲く花を窓から眺めると、思い切り外に飛び出したい気持ちになりますが、ここは一旦自重して、力を存分に蓄える春とします。



写真② 慈恩寺第1駐車場の案内板

今年度の史跡整備は、慈恩寺ガイドダンス施設の建設をはじめ、休み処の設置、慈恩寺第1駐車場のトイレ改修などを予定しています。

案内板1基、史跡を構成する主要建造物等の情報を提供するための説明板5基、の設置を行いました。史跡標識は山門前石段脇(写真①)と八面大荒神社前に1基ずつ、案内板は慈恩寺第1駐車場(写真②)に、説明板は三重塔(写真③)、宝蔵院、華蔵院、最上院、下馬橋にそれぞれ設置しました。外国人来訪者向けに案内板には英語、中国語、韓国語の訳文を、説明板には英語訳を併記しています。今回設置した看板類が、史跡の理解促進の一助になることを期待しています。

案内板1基、史跡を構成する主要建造物等の情報を提供するための説明板5基、の設置を行いました。史跡標識は山門前石段脇(写真①)と八面大荒神社前に1基ずつ、案内板は慈恩寺第1駐車場(写真②)に、説明板は三重塔(写真③)、宝蔵院、華蔵院、最上院、下馬橋にそれぞれ設置しました。外国人来訪者向けに案内板には英語、中国語、韓国語の訳文を、説明板には英語訳を併記しています。今回設置した看板類が、史跡の理解促進の一助になることを期待しています。

## 令和2年の慈恩寺関連催事の開催延期等

新型コロナウイルス感染症予防のための措置として、催事が下記のとおり延期・中止になりました。

催事名	対応
三重塔特別拝観	秋に延期
濫觴会	本山役員のみで実施
一切経会	本山役員のみで実施
慈恩寺舞楽	中止
特別展「悠遠なる平安の美仏」	秋に延期
慈恩寺舞楽講演会	秋に延期

※通常拝観の際もマスクの着用、手指の消毒をお願いしています。



写真③ 三重塔の説明板

## 病気を治す仏様 薬師如来

新型コロナウイルス感染症が困難と呼べるほどの災禍をもたらしていますが、過去に鎮護国家、除災招福を祈願したのが、慈恩寺でした。疫病の流行の際には、薬師如来に祈願する人が多かったようです。

古来、東北地方は薬師信仰が盛んでした。人々は貧しく医者の数も少ないため、薬師如来にお願いして、病氣平癒を願ったようです。薬師如来をサポートするのが脇侍の日光菩薩と月光菩薩です。日の光と月の光で昼夜を問わず、24時間体制でサポートする、ということのようです。



す。この三尊で薬師三尊を構成し、さらにこれらと信者を守護するのが、十二神将です。現代に置き換えると、薬師如来が医師、日光菩薩、月光菩薩が看護師、十二神将がガードマンといったところでしょうか。

この薬師如来像は、本堂境内地の東「上の寺」の薬師寺に安置されていたと伝わります。しかし、ここは江戸時代初め頃までにはなくなり、寛永13年(1636)、像は本堂近くに移されました。元禄5年(1699)に薬師堂が再建され、今に至ります。

さて、昭和63年、薬師如来像が修理されました。その際、頭の内側に書かれた文字が発見され、延慶3年(1310)に京都の仏師・院保が作った仏像であることがわかりました。慈恩寺にもたらされた経緯は明らかになっていません。鎌倉時代の寒河江といえば大江氏が思い出されますが、正応5年(1292)に大江氏は鎌倉を離れ、寒河江で直接治めるようになったといえます。経緯は様々考えられますが、京の都で作られた仏像であることに変わりはありません。

およそ700年もの間、慈恩寺の薬師三尊と十二神将は、人々の病氣平癒の願いを受け止めてきたことでしょう。それだけでなく、薬師如来像には、鎌倉時代の寒河江・慈恩寺と当時の都とのつながりを想像させてくれる側面も持っています。

流行り病で思い起こされるものとして、鑄鉄仏餉鉢もあります。本堂外陣に置かれるこの鉢は、慶長11年(1606)に谷地の鑄物師によって作られました。言い伝えでは、麻疹(はしか)にかかった子どもの頭にこの鉢をかぶせると、症状が和らいだと言います。

薬師如来・鑄鉄仏餉鉢には多くの話が残っているようですので、詳しく知りたい方は、ぜひ本山慈恩寺にお尋ねください。



薬師三尊像

## 新刊紹介

寒河江市史 慈恩寺最上院日記 上

江戸時代、最上院は宝蔵院・華蔵院と並び慈恩寺支配職の一つで、別当とも称していました。最上院日記は、慈恩寺年中行事や動きなどの記録です。「公私日並記」や「所用留書記」などの表題がつけられて書き継がれました。別当と一門の動きや保養・娯楽の記録、年貢収納、法要、代官所との関わりなど、詳しく読むと、慈恩寺の新しい姿が浮かびあがってきます。

上巻には、寛延3(1750)年から文久3(1863)年までの日記を収めました。

- 頒布価格／4千円
- 編集／寒河江市史編纂委員会
- 問合せ／市生涯学習課歴史文化係

☎ (06) 82331



慈恩寺最上院日記 上